

房総国際芸術祭

アート×ミックス2027

企画発表会



日時 2026年10月2日(金) 10:00-11:00
場所 KABUTO ONE HALL & CONFERENCE 4階ホールA
主催 房総国際芸術祭実行委員会

目次

房総国際芸術祭とは	1
これまでのあゆみ	2
開催概要	3
ロゴについて	4
参加作家一覧	5-7
エリア紹介（市原市）	8-12
エリア紹介（木更津市）	13-14
エリア紹介（大多喜町）	15
エリア紹介（広域）	16
音楽ライブ・パフォーマンス（3月）	17
音楽ライブ・パフォーマンス（4月）	18
音楽ライブ・パフォーマンス（5月）	19
ツアー	20
チケット情報	21-22
サポーター「ミックスナッツ」	23
オブザーバー	24
寄附・協賛	25
お問合せ先・公式ホームページ・各種SNS	26

房総国際芸術祭とは

房総半島まるごとの千葉県は、鎌倉殿が勢力を拡大し、のちに各地で城下町が形成された関東の歴史的拠点であり、古くは国分寺から遡る古墳文化の華やかな地であり、2500万年前にはユーラシア大陸から離れていく日本列島の牽引の大地でした。近代以降、この豊かさを育む里山や歴史的な風景とともに、日本有数の工業地帯、および首都圏の大切な住宅地として発展し、今や日本列島の縮図ともいえる特徴ある地域として存在感をもってきました。

本芸術祭は、多様な文化を育んできた房総の地で、美術・文化を題材とした地域づくりを始めるべく、千葉県・市原市・木更津市・大多喜町が「房総国際芸術祭 アート×ミックス2027」を開催します。地域の産業・美術・音楽を、海外から学びつつも、地域の力のなかで育てていこうとするものです。

市原市、木更津市、大多喜町の各地にアート作品と音楽・ライブパフォーマンスを展開し、来場者は、半島を縦断する鉄道、車、自転車や徒歩などで地域を旅します。太平洋を臨むフロンティアの地に、世界各地から作家が集い、世界へと開かれた国際的な芸術祭の拠点として歩み始めます。

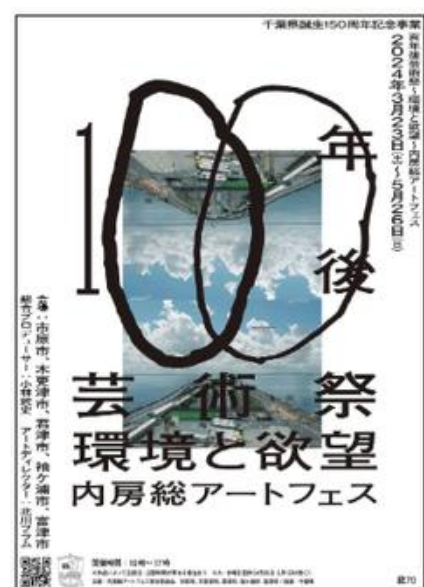
ここでは「みんなの美術工房」の構想のもと、ものづくりに注目し、作家の滞在制作やシンポジウム、ワークショップを開催します。さらに、木更津のKURKKU FIELDSを立ち上げた小林武史が、この地域の特徴を生かした音楽・ライブパフォーマンスを手掛けます。また各エリアの食施設と連携して地産地消メニューや新しい食体験を考案し、来場者と地域との交流も創出します。

これまでの歩み

千葉県市原市では、地域課題の解決や交流人口拡大を目的に、2014年から芸術祭「いちほらアート×ミックス」を開催し、アートを媒介にした地域の魅力の再発見と活用に取り組んできました。

これを継承し、2024年は内房総5市（市原市、木更津市、君津市、袖ヶ浦市、富津市）にて官民協働で「千葉県誕生150周年記念事業 百年後芸術祭～環境と欲望～内房総アートフェス」を展開。

2027年はそれをさらに発展させ、千葉県、市原市、木更津市、大多喜町が連携し「房総国際芸術祭 アート×ミックス2027」を開催します。





開催概要

名称 房総国際芸術祭 アート×ミックス2027
(ぼうそうこくさいげいじゅつさい あーとみっくすにーぜろにーなな)
Boso Triennale 2027

会期 令和9年3月6日 | 土 | - 5月30日 | 日 |
※火・水曜日定休（GWは除く）、64日間

会場 市原市、木更津市、大多喜町の各地

テーマ・コンセプト
五感全開、旅する房総ーみんなの美術工房ー

主催
房総国際芸術祭実行委員会（千葉県、市原市、木更津市、大多喜町）

総合プロデューサー 小林 武史

総合ディレクター 北川 フラム

アートディレクター 豊福 亮

デザインディレクター 長嶋 りかこ



ロゴについて



房総国際芸術祭
Boso Triennale

青と赤という二極の色味が滲む景色は、「内」と「外」、「人工」と「自然」、「効率」と「非効率」といった対極する要素がミックスし、社会に“あわい”（※）を描くことを隠喩しています。

太平洋を望む房総半島が、交流の玄関口として開口部の一助となる国際的な芸術祭を目指していることから、房総半島の陸地から見た太平洋の海と空の境界が滲む風景を思わせる、整然としたグラデーションをメインビジュアルに据えました。一方、おぼつかない手つきで色を混ぜるかのように描かれた円は、造作、対話、交流といった人為によって生まれる“あわい”を表しています。

ロゴには、日本語に丸ゴシック系統の書体、英語に角ゴシック系統のコーディング書体を使用しています。日本語は道路標識など日本の物理的な公共空間で多用されてきた丸ゴシック系統の書体であり、英語はコーディングフォントとしてシステム構築において用いられる、仮想公共空間の裏方的角ゴシック書体です。丸と角、表と裏、物理と仮想、という2つの対極的な書体を日英併記で組み合わせ1つのロゴとすることで、コントラストとあわいを宿しています。

※あわい（間）...向かい合うもののあいだ。また、2つのものの関係。

参加作家一覧

※2026年9月時点／五十音順

	作家名・プロジェクト名（日）	出身／在住
1	アイガルス・ビクシェ	ラトビア
2	秋廣誠	日本
3	浅井裕介	日本
4	アニッシュ・カプーア	インド／イギリス
5	安野谷昌穂	日本
6	EAT&ART TARO	日本
7	YEN TOWN BAND	日本
8	イ・ビョンチャン	韓国
9	岩間賢	日本
10	宇川開	日本
11	江頭誠	日本
12	大貫仁美	日本
13	岡田杏里	日本／ドイツ
14	岡博美	日本
15	小沢敦志	日本
16	小谷元彦	日本
17	尾身大輔	日本
18	オラファー・エリアソン	アイスランド／デンマーク
19	カールステン・ニコライ	ドイツ
20	加藤みいさ	日本
21	角文平	日本
22	カミュー・アンロ	フランス／アメリカ
23	カルロス・ガライコア	キューバ
24	カロリーナ・カイセド	コロンビア／アメリカ
25	川畑那奈	日本
26	カワヤン・デ・ギア+アク（シス）・アートプロジェクト・バギオ	フィリピン
27	木村崇人	日本
28	栗田宏武	日本
29	CLIP	日本
30	栗山斉	日本

参加作家一覧

※2026年9月時点／五十音順

	作家名・プロジェクト名（日）	出身／在住
31	クワクポリョウタ	日本
32	ゲゲルボヨ	インドネシア
33	KOSUGE1-16	日本
34	小瀬村真美	日本
35	Kongo Astronauts	コンゴ民主共和国
36	笹岡由梨子	日本
37	塩月洋生	日本
38	柴川敏之	日本
39	シモン・ベガ	エルサルバドル
40	ジュリアン・シャリエール	スイス／ドイツ
41	ジョアン・カポーテ	キューバ
42	ジョンベット・クスウィダナント	インドネシア
43	シルパ・グプタ	インド
44	鈴木ヒラク	日本
45	鈴木敦夫	日本
46	関川航平＋BankART1929	日本
47	ソカリ・ドグラス・カンフ	ナイジェリア／イギリス
48	竹内公太	日本
49	竹村京	日本
50	田中奈緒子	日本／ドイツ
51	田中誠人	日本
52	タムラサトル	日本
53	千田泰広	日本
54	チョウハシトオル	日本
55	Chim ↑ Pom from Smappa!Group	日本
56	富安由真	日本
57	豊福亮	日本
58	中里繪魯洲	日本
59	中根唯	日本
60	仲村浩一	日本



参加作家一覧

※2026年9月時点／五十音順

	作家名・プロジェクト名（日）	出身／在住
61	南条嘉毅	日本
62	ニール・メンドーサ	イギリス／アメリカ
63	西尾美也	日本
64	西島雄志	日本
65	原田郁	日本
66	ファブリス・イベール	フランス
67	風景と食設計室 ホー	日本
68	藤本壮介	日本
69	ベアトリス・コルテス	エルサルバドル／アメリカ
70	ヘラルド・バルガス	メキシコ
71	槇原泰介	日本
72	増田セバスチャン	日本
73	マリア・フェルナンダ・カルドーゾ＋ロス・ルーデッシュ・ハーレイ	コロンビア、オーストラリア／オーストラリア
74	満尾洋之	日本
75	三宅感	日本
76	宮永愛子	日本
77	毛利悠子	日本／ドイツ
78	森靖	日本
79	八木秀人	日本
80	柳建太郎	日本
81	山口はるか	日本
82	山田泉美	日本
83	山之内淡	日本
84	横谷奈歩	日本
85	吉野祥太郎	日本
86	レオニート・チシコフ	旧ソ連／ロシア
87	レミオロメン	日本
88	渡邊大志	日本
89	ワン・チュンクン [王仲堃]	台湾

※その他、KURKKU FIELDS常設作品の作家を含む

※19の国と地域から90組が参加予定

エリア紹介（市原市）

01. 八幡エリア

東京湾岸の工業地帯と古くからの市街地が交差する市原市の玄関口。八幡宿駅前は毎日多くの通勤・通学者が行き交う一方で、かつて地域の暮らしや商いを支えた建築や空間が今なお点在している。再開発による新しい街並みと歴史ある風景が共存し、地域の変遷を

感じることができる場所でもある。周辺には神社や商店街、住宅地が広がり人々の生活と密接に結びついた地域の姿を見ることができる。そんな八幡宿の異なる時間層を映し出す3つの場所

（旧八幡南町駐輪場、南町宝蔵蔵、魚惣）を舞台に、地域の記憶や文化、人々の営みを見つめ直すアート作品を展開する。



02. 五井エリア

小湊鉄道五井駅と、隣接する機関区や周辺会場から成るエリア。JR五井駅とも接続する交通の結節点であり、市原市の玄関口として多くの通勤・通学者や観光客が利用している。週末にはマルシェやイベントが開催されるなど地域の賑わいを感じられる場所でも

ある。小湊鉄道が保有する3台のSL機関車を間近に見ることができ、鉄道ファンにも親しまれている。機関区では鉄道の歴史や技術に触れることができるほか、沿線観光の拠点としての役割も担う。人々の移動や交流が交差するこの場所を舞台に、多彩なアート作品を紹介する。



03. 内田未来楽校

100年近い歴史を持つ木造建築を活用して、地域の自然や歴史などを生かした事業が行われている。1928年に内田尋常小学校の校舎として建てられた内田未来楽校は、民間に払い下げられて工場・作業場として使用されたのち、取り壊しの危機に瀕するも、地域住民・支援者を中心に設立された「報徳の会」が買い取ることでその姿を今に保っている。現在は、芸術祭会期中の作品会場として展開するほか、報徳の会から発展した「NPO 法人報徳の会・内田未来楽校」によって、里山ハイキング、展示会、朝市、こっこ市、マルシェなど、様々な取り組みが行われている。



Photo by Nakamura Osamu

04. 牛久エリア

市原市のほぼ中心に位置し、養老川の船着場や荷揚げ場と、東京湾～太平洋の陸路との交点にできたかつての宿場町。市原市中心部～南部の商業の中心地として発展し、かつての街道に沿って店々が軒を連ねる商店街は約1kmにわたる。小湊鉄道の上総牛久駅は、途中駅でもっとも利用者の多い駅であり、木造の駅舎は国の登録有形文化財となっている。近年は、牛久商店街で「牛久り・デザインプロジェクト」が実施され、アーティスト・イン・レジデンスなどアーティストと地域が連携する取り組みが進んでいる。2027年は、新たに旧牛久幼稚園が作品展示会場となる。



千田泰広《Analemma》 Photo by Nakamura Osamu

05. 市原湖畔美術館

千葉県一の貯水面積を誇る高滝湖に臨む美術館。1995年に開館した観光・文化施設「市原市水と彫刻の丘」のリニューアルにより、市原市の市制施行50周年を記念して2013年に誕生した。

「里山の地に足でしっかり立ち、眼は広く世界を眺める」を志し、10点の恒久作品の展示のほか、現代アートを中心とした企画展、地域・子どもに開かれたワークショップ、広場を利用したマルシェやピクニックなど、多彩なプログラムを展開している。芸術祭会期中は、その一環として企画展「房総から地球（テラ）へー地球の記憶を読む」を開催。

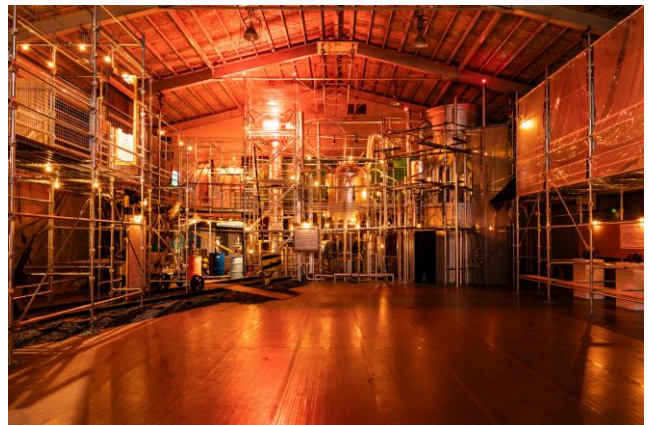


Photo by Endo Tadashi

06. 旧里見小学校

大正時代の1913年に開校し、2013年に閉校した小学校。過去の「いちほらアート×ミックス」でも毎回作品展示の会場となってきたが、2024年の「内房総アートフェス」にあわせて校舎や体育館、校庭を大幅リニューアル。

体育館は、市原の工場夜景をモチーフとしたミュージアムに生まれ変わった。インフォメーションセンターも設置され、芸術祭の主要拠点のひとつとして多くの人が訪れる場所となった。2027年は芸術祭のコンセプトにもなっている「美術工房」としての特徴を強め、各教室では作家による公開制作やWS、お菓子の製造販売も行われる。



豊福亮《里見プラントミュージアム》Photo by Nakamura Osamu

07. 旧平三小学校

明治時代の1876年に開校し、2016年に閉校した小学校。地域住民で構成する「集い広場へいさん」のメンバーが主体となり毎月第1土曜日に「里山市」を開催するなど、閉校後の今でも地域コミュニティの拠点として人々が集まる場となっている。養老川の支流である平蔵川はかつて学校を迂回して流れていたが、川廻しという手法で校庭の下へと流れを変えたことで橋を渡さずに学校への行き来ができるようになった。この「平蔵川の川廻し」によってできたトンネルは地域のシンボルとなっている。



富安由真《Three on the Level》Photo by Nakamura Osamu

08. いちはらクオードの森

東京ドーム約25個分の広大な敷地をもつ、豊かな自然環境を活かした公園。起伏に富んだ地形や森林、池など、多様な里山の風景が残されており、四季折々の自然を身近に感じられる市民の憩いの場。園内には散策路や植物園、キャンプ場なども整備され、ゆっくりと森の時間を楽しめる。本エリアでは2点の屋外作品を展開。作品は森の風景や環境と呼应しながら、それぞれ異なる視点で土地の魅力や記憶を浮かび上がらせる。



小沢敦志《地熱の扉》Photo by Nakamura Osamu

09. 月出工舎

旧月出小学校から生まれた「みんなでつくるがっこう 月出工舎」。2014年の開校以来、地域の人々やアーティストが集い、「遊・学・匠・食」を軸に、作品づくりや森の手入れ、食・自然・農に関わる活動を続けてきた。地域に根づく風習や知恵を大切にしながら、世界とつながる表現を育み、地域の防災を支える場としての役割も担っている。芸術祭では、森から山あいの道を歩き、野外作品や空き家作品を巡る。体育館では月出の果物や野菜、発酵の知恵を生かしたパフェなどを提供。自家焙煎の「ヤマドリ珈琲」とともに、月出ならではの時間を楽しめる。



岡田杏里《月が生まれたとき》Photo by Nakamura Osamu

エリア紹介（木更津市）

10. 海岸部エリア

木更津駅と潮浜公園の作品が含まれるエリア。木更津駅は、房総半島の玄関口として多くの人が行き交う場所。東京湾アクアラインの開通以降、都心とのアクセスが向上し、観光客も訪れる地域の中心となっている。駅構内には、作品として装飾されたストリートピアノが設置され、自由な演奏を通じて人々の交流を生み出す。駅から徒歩圏内の潮浜公園では、東京湾を行き交う船や工業地帯の煙突、クレーンなど、木更津ならではの景観を楽しめる。昼と夜で表情を変える海辺の風景の中に2点の作品が展開される。



11. 富来田エリア

木更津市北東部に位置し、里山景観と地域の歴史・文化が色濃く残る地域。古代の歌が伝わる万葉の道、旧校舎を活用したグランピング施設「ETOWA KISARAZU」、ローカル線の風景を伝える馬来田駅、地域の交流拠点である富来田地域交流センターなど、多様な場所が点在する。また、近年は遊休施設の活用や新たな観光拠点の整備も進み、地域資源を活かした取り組みが展開されている。本エリアでは、それぞれの場所の個性を活かした作品を展開する。



12. KURKKU FIELDS

約9万坪(30ha)の広大な敷地で「農」「食」「アート」そして「自然」の循環を体験してもらえるサステナブルファーム&パーク。おいしく安全な「食」の提供はもちろんのこと、食と農業の循環、人の手が加わることで多様な生き物の住処となるビオトープなど、さまざまな循環を感じることができる施設。また、サステナブルな未来の形やいのちの“手ざわり”を体験できる施設としても取り組んでいる。



13. KURKKU FIELDS MUSEUM（仮称）

建築家の石田建太郎氏(KIAS イシダアーキテクトスタジオ株式会社代表)と共に、KURKKU FIELDSの敷地内に新たなアート拠点を新設。20世紀後半の美術を代表するアンディ・ウォーホル、デイヴィッド・ホックニーなどに加え、現在活躍する世代の作家の作品を収蔵。開館は2027年4月を予定している。



※画像はイメージです

エリア紹介（大多喜町）

14. 城下町通り

大多喜城の城下町として発展した地域で、商家や蔵、旅館など当時の面影を残す建物が点在し、「房総の小江戸」とも称される風情ある町並みが受け継がれている。通りには細い路地や歴史的建造物が連なり、歩きながら城下町の文化や人々の営みに触れることができ、大多喜の歴史と記憶を今に伝える、町を象徴するエリア。本エリアでは商家保存資料館や旧ハリカ、旧商い資料館、旧飲食店、貯水池など、性格の異なる複数の場所に作品を展開する。



15. 大多喜町役場中庁舎

戦後日本を代表する建築家・今井兼次が1959年に設計した中庁舎と、その保存再生および増築を手掛けた現代建築家・千葉学による本庁舎が共存する、日本近現代建築の継承を象徴する建築群。中庁舎は日本建築学会賞を受賞し、国の登録有形文化財にも登録されている。モダニズム建築の先駆的なデザインと豊かな装飾性を備えている。今井兼次は日本にアントニ・ガウディを紹介したことでも知られ、ガウディの影響から、屋上のペントハウスの天上と東西の壁、1階への採光窓をモザイク画で飾っている。



エリア紹介（広域）

16. 小湊鉄道駅プロジェクト

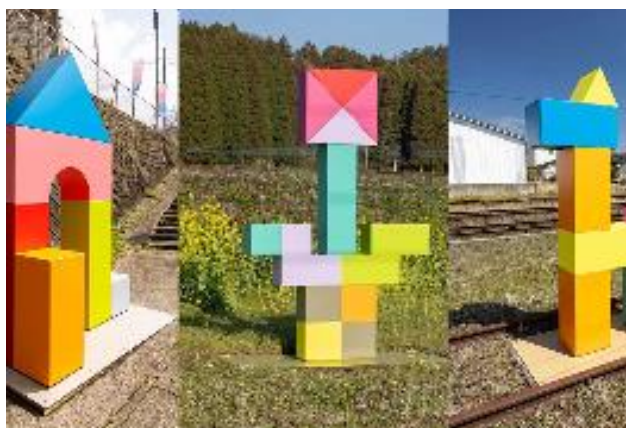
小湊鉄道は各駅舎等が国登録有形文化財であり、沿線には里山風景や地域の暮らしが色濃く残っている。本プロジェクトでは、そうした駅舎や鉄道の歴史、地域との関わりから着想を得た作品を各駅で展開。これまでも列車そのものを舞台とした参加型作品や、駅舎トイレの改築を試みた実用的でユニークな作品など、駅ならではの特徴を生かした作品が数多く制作されてきた。鉄道を移動手段としてだけでなく、人々や地域をつなぐ文化資源として捉え直し、沿線を巡りながらアートと風景の双方を楽しめるプロジェクト。



藤本壮介《Toilet in Nature》Photo by Nakamura Osamu

17. 広域サイン

原田郁が手がけるサイン作品が、芸術祭会場の各所に散りばめられている。動物や花、家などをかたどった色鮮やかな作品は、来場者を導くアイコンとして機能しながら、里山の風景の中にささやかな彩りを添える。原田郁は、親しみやすいモチーフと明快な色彩の作品を数多く制作してきた。本作も単なる案内サインにとどまらず、芸術祭の風景を形づくる作品の一つとして親しまれている。作品を見つけながら巡る体験そのものが、芸術祭ならではの楽しみとなる。



原田郁《FRAGMENTS OF THE GARDEN》Photo by Nakamura Osamu

音楽ライブ・パフォーマンス（3月）

音楽ライブ・マルシェイベント

日程 3/13（土）
出演者 レミオロメン
会場 市原市民会館（千葉県市原市）

再び3人で音を重ねる「Re Dialogue Tour 2027」。市原の地で、これまでの時間と現在が響き合う特別なステージを届ける。



日程 3/27（土）・3/28（日）
出演者 東京QQQ・宮坂遼太郎 and more...
会場 旧里見小学校 体育館（千葉県市原市）

「ものづくり」をキーワードに、農業、食、音楽、地域文化など、さまざまな営みが交わり、新たな体験や表現を生み出していくイベントを目指す。校庭では、農業や食にまつわる体験やライブキッチンなどを展開し、地域の人々の営みや素材を、訪れる人とともに楽しみながら、新しい「ものづくり」へとつなげていく。



©ISOBE AKIKO

音楽ライブ・パフォーマンス（4月）

音楽ライブ・マルシェイベント

日程 4/11（日）
出演者 DJみそしるとMCごはん and more...
会場 MUJI BASE OIKAWA（千葉県大多喜町）

2013年に閉校した旧老川小学校を活用し、2024年に開業したMUJI BASE OIKAWAにて、『MUJI BOSO Marche』と音楽ライブの同日開催を予定。



©Ryohin Keikaku Co., Ltd.

日程 4/24（土）
出演者 ※2027年情報解禁予定
会場 mitosaya薬草園蒸留所（千葉県大多喜町）

かつて薬草園だった場所にひらかれたmitosaya薬草園蒸留所にて、『mitosaya open day』と芸術祭の音楽ライブの同日開催を予定。



芸術祭特別ツアーでのコースランチの提供

日程 4/24（土）
シェフ 石松一樹
会場 大多喜有用植物苑（千葉県大多喜町）

芸術祭特別バスツアーの中で、石松シェフによるコースランチの提供を行う。大多喜有用植物苑は日本やアジアの有用植物・薬草を通じて、人と植物の健やかな関係性を結び直す体験型施設。



音楽ライブ・パフォーマンス（5月）

音楽ライブ

日程 5/8（土）

出演者 YEN TOWN BAND and more...

会場 KURKKU FIELDS（千葉県木更津市）

映画『スワロウテイル』が描いた、国籍や言語、文化が入り混じる架空の街“イェンタウン”。その世界観と、音楽監督・小林武史によるYEN TOWN BANDの音楽を起点に、当時の作品をそのまま再現するのではなく、時代を越えて現代に立ち上げ直すような円都LIVEを構想。

『スワロウテイル』が描いた、多様な人々が混ざり合いながらひとつの場所をつくっていく感覚を体験できる場が開かれる。翌日には『スワロウテイル』の上映会を予定している。



参考

「円都LIVE」2023年（千葉県誕生150周年記念事業
百年後芸術祭～環境と欲望～ 内房総アートフェス）

ツアー ※金額や行程等の詳細情報は1月下旬に公開予定

オフィシャルツアー

各エリアの新作アートや主要施設を巡るツアー

予約制で会期中の土日祝日に催行。ツアーバスに乗り、芸術祭を熟知した公式ガイドの案内のもと、各会場の作品を鑑賞します。

各市町特別ツアー

開催地である市原市、木更津市、大多喜町の特色を生かした限定ツアー

予約制で会期中の特定日に催行。ローカル鉄道の作品巡り、地域ゆかりのシェフによる特別ランチ、普段は入れない施設の見学など、その地域ならではの体験とアート作品をガイド付きで巡ります。



レオニート・チシコフ
《7つの月を探す旅》2021年



アートバス

芸術祭の作品会場を効率よく巡る公式バス

予約制で会期中毎日運行。3つのコースを組み合わせ、小湊鉄道の駅舎作品を除くほとんどのエリアを網羅することができます。

チケット情報

芸術祭の会期中のほぼ全ての作品を1回ずつ鑑賞できる「作品鑑賞パスポート」、または作品ごとの「個別鑑賞券」により鑑賞できます。

作品鑑賞パスポート

区分	前売 2027.3.5まで	会期中 2027.3.6～5.30
大人（19歳以上）	3,000円	3,500円
中人（16～18歳）	1,000円	1,500円
小人（15歳以下）	無料	無料
○オンライン販売		
アソビュー！ ArtSticker Japanticket	○	○
○対面販売		
木更津市観光案内所	○	○
芸術祭インフォ メーションセンター	×	○

※障がい者手帳をお持ちの方は無料（介添が必要な場合は介添者1名無料）

お得な作品鑑賞パスポート特典

パスポートの提示により割引やサービスなどの特典を受けることができます。
協力店舗の情報や特典内容は、作品鑑賞パスポート及び公式HP等に掲載します。

個別鑑賞券

料金 400円～/1会場

購入方法 作品受付にて購入（一部を除き現金のみ）

チケット情報

大口購入

お得な大口購入制度を設けています。企業や団体の皆さままでぜひお越しください。

購入数	価格/冊（大人）	特典
20冊以上	2,700円（前売） 3,200円（会期中）	なし
100冊以上	2,700円（前売） 3,200円（会期中）	5万円以上の区分の特典に 応じて社名掲載

個人版ふるさと納税

作品鑑賞パスポートの実券販売に先行して、市原市・木更津市・大多喜町のふるさと納税返礼品として登録しました。

（返礼品の発送は2027年1月以降となります。）

市原市・木更津市・大多喜町の各市町のHPからお申込みいただけます。

市原市



木更津市



大多喜町



サポーター「ミックスナッツ」

サポーターは、芸術祭をともに作り上げる芸術祭の中心的存在のボランティアスタッフです。アーティストと地域、作品と来場者をつなぐ重要な役割を担います。

※応援するだけでなく、芸術祭と一緒に支えている存在であるという意味から、ボランティアの皆さんを「サポーター」と呼んでいます。

主な活動内容

- ・会場整備：作品展示会場の清掃、草刈などのメンテナンス
- ・作品制作サポート：アーティストや地元の方と一緒にアート作品制作
- ・作品受付：会期中の受付や案内、来場者や地元の方と交流しながらおもてなし
- ・イベントサポート：芸術祭関連イベントの運営サポート



企業・団体サポーター

地元企業・団体、学校など、地域を知る人たちがボランティアとして加わって、「人」（地域住民、来場者、アーティストなど）と地域をつなぐコミュニケーションの架け橋となり、芸術祭を支えます。

企業・団体サポーターも随時受け付けておりますので、詳細は芸術祭事務局までお問合せください。

オブザーバー

イオンモール株式会社 | イオンモール木更津 | いすみ鉄道株式会社 |

株式会社イトーヨーカ堂 | アリオ市原店 | 一般社団法人大多喜町観光協会 |

大多喜町商工会 | 一般社団法人木更津市観光協会 | 木更津市富来田商工会 |

君津信用組合 | 株式会社KURKKU FIELDS | 株式会社京葉銀行 |

小湊鐵道株式会社 | 株式会社千葉銀行 | 公益社団法人千葉県観光物産協会 |

公益財団法人千葉県文化振興財団 | 株式会社千葉興業銀行 |

株式会社千葉ステーションビル | 千葉テレビ放送株式会社 | 株式会社千葉日報社 |

成田国際空港株式会社 | 日東交通株式会社 | 日本放送協会 | 千葉放送局 |

東日本高速道路株式会社関東支社市原管理事務所 |

東日本高速道路株式会社関東支社東京湾アクアライン管理事務所 |

東日本旅客鉄道株式会社房総事業本部 | 株式会社ベイエフエム |

養老溪谷観光協会 | 株式会社良品計画 | MUJI BASE OIKAWA |

寄附・協賛

本芸術祭へ寄附・協賛をいただいている企業・団体の皆様
(令和8年9月29日時点)

株式会社合同資源 | 株式会社OORONG-SHA |

イオンモール幕張新都心 | 野村アセットマネジメント株式会社 | 株式会社千葉銀行 |

イオンモール木更津 | 株式会社京葉銀行 | 株式会社千葉興業銀行 | 株式会社 J E R A |

小湊鉄道株式会社 | 株式会社新昭和 | 株式会社ホテル三日月 | 株式会社加山 |

東日本旅客鉄道株式会社 房総事業本部 | 帝京平成大学 | 株式会社富澤商店 |

山崎製パン株式会社 | 京葉ガスエナジーソリューション株式会社 |

株式会社いちほらケーブルテレビ | 学校法人冲永学園 冲永学園文化芸術研究センター |

東日本高速道路株式会社東京湾アクアライン管理事務所 | 日東交通株式会社 |

東日本高速道路株式会社市原管理事務所 | 株式会社千葉ステーションビル |

出光興産株式会社 千葉事業所 |

日本管財株式会社 | 株式会社エナジー宇宙 | 市原市臨海部工場連絡会 八幡支部 |

芝工業株式会社 | 株式会社トロンマネジメント | 三井化学株式会社 |

公益財団法人千葉県文化振興財団 | 千葉石油株式会社 | 住友化学株式会社 千葉工場 |

株式会社昭文社 | 市原市塗装協同組合 | 株式会社世広 | 株式会社イシワタ |

株式会社やます | 三井不動産株式会社 | 学校法人君津学園 市原中央高等学校 |

各種SNS

SNSでは作家紹介やイベント案内など、様々な情報をリアルタイムで発信していきます。

○Instagram



○Facebook



○X



お問合せ先

房総国際芸術祭実行委員会事務局

〒292-8501

千葉県木更津市富士見一丁目2番1号

木更津市役所駅前庁舎 観光振興課内

Tel : 0438-38-6563

Fax : 0438-23-0075

Mail : jimukyoku@boso-artmix.com

プレスキット



公式ホームページ

